
Funny The World

吉音 錫鶴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Funny The World

【ノード】

N4908N

【作者名】

吉音 謬鶴

【あらすじ】

自殺志願者の無表情少女と自由主義者の血の青年の物語。

プロローグ（前書き）

『自殺』や『死ね』、流血部分があります。苦手な方や嫌いな方は
読まないで下さい。

プロローグ

この世界はおもしろい。そんな事を思いながらカタカタと音をたてるパソコン。

自分が趣味でしているサイトを覗くと、これまたおもしろそうな書き込みがあった。

【自殺する人の考えがしりたいので、自殺します。】

なんとも馬鹿らしい書き込みだ。だからこそ、その気持ちを知りたい。どんな思いでこんな書き込みをしたのか。

手元に置いてある真っ黒な液体が入ったマグカップを掴み口へと運ぶ。砂糖もミルクも入れてないせいで苦い味が口内に広がった。その真っ黒な液体である珈琲の苦い味に表情を歪ませる事はなかった。

逆に甘い物を飲んだように口元を綻ばせていた。

もう1時も経っている。それなのに田の前にあるのはオレンジジュースと烏龍茶だけ。

いや、別におかしな事ではない。ここはカラオケだ。飲み物だけでも变には思われない。だが、この部屋にいる2人は歌う様子もない。カラオケに来ているとは思えない静かさだ。

「……飲まないの？」

少女は青年の言葉を無視しているのか、きこえていないのか（静かすぎるこの部屋できこえていないのはあり得ないが）コップに入っているオレンジジュースと氷を混ぜるだけだ。

どこを見ているのかわからない真っ黒な瞳。肩に触れない短い髪。焼けているとは思えない白い肌。

制服に私立高校のワンポイントがある事から少女は近くにある私立高校に通う女子高生だとわかる。

「……飲まないとダメなんですか」

「それって質問してんの？」

少女の言ひ方は質問とは言い難い。でも青年がきくと少女は静かに首を縦に振る。『ひやせり質問をしていたよつだ。

わかりにくい質問に苦笑しながら青年は「別に飲まなくてもいいよ」と言った。少女曰く、語尾を上げて疑問形にするのは苦手らしい。

「まだに歌おうとする様子はない。店員達には嬉しい事なのだが、『ここに何をした?』と疑問に思つだらつ。

少女は、カラオケで歌つて楽しもうなんて気はさうでない。では何故ここにいるのか?そんな質問をしたら少女は「ここが集合場所だつたから」しか言わないだろつ。

「歌わないの?」

青年は返つてくる答えがわかつていながら敢えてきいた。

「今から死のうとするのに歌つて楽しむ必要があるのですか」

少女の言葉に青年の口角がゆつくつと上がつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4908z/>

Funny The World

2011年12月16日19時53分発行